

ユネスコ世界ジオパーク再認定！



宇受賀命神社(海士町)

平成29年度 隠岐ユネスコ世界ジオパーク 学術研究発表会

日 時：平成30年3月11日（日）9:00～12:00

場 所：隠岐島文化会館 2F集会室

（隠岐の島町西町吉田の二2）

参加費：無料

主 催：隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

TEL: 08512-3-1321



発表者は、裏面をご覧ください。

<発表者>

隠岐諸島における鬱陵島起源のテフラの検出と古環境変遷の検討

中西 利典（京都大学大学院理学研究科）

約2千年前に鬱陵島火山から噴出したテフラ（火山灰）を隠岐の島町犬来の男池と海士町で検出しました。男池で採取したボーリングコア試料にはテフラ層の上位に縞状細互層が確認できたので、それらには噴火後の隠岐の生態系変化が詳しく記録されているとみられることを報告します。

隠岐諸島における主要な森林植生の種構成と構造

久保 満佐子（島根大学生物資源科学部）

島後において、主要な森林植生である照葉樹林、隠岐の代表的な樹種スギの天然林、溪畔域を構成する主要樹種カツラが優占する天然林を対象として、それぞれの森林の種構成および構造について報告します。

溪畔林の代表的な樹種カツラにおける隠岐諸島の集団の遺伝学的背景の解明

須貝 杏子（島根大学生物資源科学部）

溪畔林の代表的な樹種カツラについて、隠岐諸島の集団と他地域（日本列島と中国大陆）の集団間で、遺伝的多様性、および遺伝的地域性を比較し、日本列島の森林の成立・維持の過程において隠岐諸島がどのような役割を果たしてきたかを報告します。

隠岐郡海士町における神社の立地特性

佐藤 秀平（奈良教育大学教育学部）

隠岐に神社が多く立地している要因として、宗教的要因や政治的要因が考えられることから、どのような意図によって神社の立地が決定されているかを海士町で行った調査をもとに報告します。

<紙面報告>

隠岐諸島・島後、西ノ島及び中ノ島における 小型サンショウウオ類の分布実態の検討

岩田 貴之

先行研究の結果にもとづいて、今年度で大満寺山系でおこなった現地調査の結果を中心に報告します。

★隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会では、隠岐ジオパークに関する新知見や再発見、保全につながる科学的な成果の蓄積を図るため、独自の調査だけでなく、研究者への支援と積極的な受け入れを行っています。

★ジオパークは、4年に1度の再認定審査があります。今年度、隠岐ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークの再認定となりました。